

ふじやま だより

第8号

発行 2003年

8月15日

本郷

ふじやま公園

運営委員会



押し葉や種がイルカや卵に変身・

ダックス フンドにもなりました ～夏休み子供工作教室～

寺田 貴美子

夏本番、子供達の声と蝉の鳴くハーモニーが公園を訪れる人々を和ませています。8月1日、本郷ふじやま公園にあります工作棟で夏休み子供工作教室「自然の素材で遊ぶ」を開催致しました。長つゆも終わり、大勢の子供達とお母様方にご参加いただき賑やかな一日となりました。好きな色、2枚の色画用紙を選び今日はどっちの色を使いたい気分かな、で始めました。

「お母さん出来上がるまで何処かへ行ってよ」

「エ」

「ねえ、ここどうするの」

「ソウネエ・・・」

「いいの だまってて」

「ハーイ」

そんな母子の会話が聞かれる内、次々に個性が活かされた作品が出来上がりました。

「これ、自動車」・・・樹の皮と杉の実、「ちょうちょ」・・・葉と杉と色石と綿の実

「水カマキリとカエル」・・・葉と種と小枝と苔、「おっばい」・・・ドングリ二つ

「ヒヨコのとまご」・・・シュロの皮と綿の実、「トンボ」・・・ホトトギスの種とカラ

その他「犬」「アリが木に登る」「花の庭」「せみ」「魚がおよぐ」「山と雲」

「秋模様」「栗の木と落ち葉」「月とうさぎ」・・・皆自分の世界に入っています・・・

たのしい 発見

たのしい 空想

いつの間にかできたストーリー

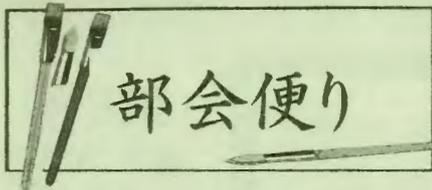
たのしい うれしい おもしろい

「ヤッター できた 出来た」 作品をもって記念写真、とても満足そうでした。

この日のご参加いただきました方々は約50人です。有り難うございました。

今回参加できなかった方は、8月24日竹細工の教室があります。

小動物を作りますのでご参加ください、公園の工作棟でお待ちしております。



部会便り



農芸部会 木村 治夫

農芸部会

花も野菜も夏まっさかり！



～ 庭のものみな丈高く晩夏かな 八重子 ～

主屋から表門（長屋門）を通して見る木々の葉は、8月ともなると一層緑濃く茂り、芝に落とす緑陰は別世界のように夏の暑さを和らげています。

長屋門脇の花壇は、花好きのメンバーを中心に、月曜・木曜の定例作業の中で話し合いを重ね、開園後半年で古民家に調和するまでになりました。

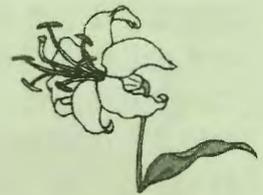
花々は、部会員やその知人、花壇を見られた方の持ち寄られたものが殆んどです。都会では見られなくなったような山野草、春・秋の七草、茶花など、和花を主に80種類を越えたことでしょうか。白・淡紅色のノコギリソウなどに代わって、今はホウズキが色づき、もうじき珍しい

〈江戸の変わり咲き朝顔〉も咲くことでしょう。

部会員は皆花づくり、土いじりが大好きです。1～2枚の若葉で花名が分ってしまう方、雨の日でも黙々と手入れをする人、「きれいな花を咲かせておくれ」と言いながら植え込む人、正座の方が楽だと言って土の上に座って作業するおばあちゃん、土いじりでご飯が美味しく健康になったと喜ぶ人など多彩な顔ぶれです。

畑では、胡瓜の収穫が先月から最盛期で、ミニトマトもそれに続き園内の諸活動の際だけでは消費し切れないほどです。『公園や畑のもので・・・！』ということで、手づくりの梅ジュース・赤ジソジュースは、開園日に記念植樹したどんぐり林の下草刈りや園内クリーンアップ作業などの折には疲れを大いに癒してくれました。また、工作棟での『藍の生葉染め』教室も畑の藍を使って開かれました。これらは、協働の喜び・古民家での仲間の絆を実感するものでした。来園者の方々に、懐かしい昔を、遠い故郷を思い出していただけるような花壇・畑にしたいと、一同精を出しています。

工芸部会



生涯楽しめるボタニカルアート

工芸部会 宗森 英夫

3月から始められた趣味の教室「ボタニカルアート」は、植物の細密水彩画で、四季折々の花を描いております。植物は種類が多く、次々といろいろな花が咲きますので、画題に困ることはありません。したがって、はまり込むと生涯楽しめる趣味とすることができます。路傍に咲く野草の花も、じっくりと観察すると様々な姿を発見することができます。普段何気なく眺めているものでも、改めて注意深く見ると、おもしろい形や色の微妙な変化があり、見飽きることはありません。

ボタニカルアートでは、対象をよく観察して、その特徴を忠実に描くため、描き方の技法だけでなく観察力も身につけてきます。一般の絵画とは異なり、省略や誇張は一切行わず、バックや付属物

(植木鉢や花瓶など)も描きません。植物そのものの美しさを描いたすがすがしい作品ができます。

透明水彩絵具を何度も塗り重ねながら、微妙な変化を作り出します。

あなたも挑戦してみませんか。時間がかかりますから熱意と根気が必要ですが、楽しいですよ

古民家歴史部会

ふじやま公園古民家の茅葺き屋根の概要

古民家歴史部会 木島 健司

茅葺きの屋根は新たに葺き替えられました。主屋に要した茅の量は4千束（束は両腕で何とか抱えられる量です）で、平成13年冬に刈り取った御殿場産のやまかやを使用しています。長屋門は1千束で平成12年冬に刈り取った宮城産を使用しています。茅を支える竹は何れも平成13年9月に伐採した熊本産を使用しています。

勾配は45° 軒先で外側に凸の丸みをつけています。

棟はステンレス板を敷き、シタマル(長茅)、杉皮、グシズ(竹簀)、瓦の順で構成されています。

茅は1.5mから1.8mの長さがあります。雨に濡れるのは表面の10cm程度で、雨・カビ・鳥・虫等で劣化すると其の部分を引き出し新しい茅を詰め込みます。茅や竹はイロリやカマドの煙で常に燻されカビや虫から守られます。これらの作業を続ければ50年は使用できるといわれています。

イロリ守ボランティア班の方がイロリで火を焚き煙で燻しています。

いろり守の会



囲炉裏のある風景

いろり守の会 三輪 郁夫

伯父の家に大きな囲炉裏があった。直径20センチはある丸太が2、3本、チロチロと、一日中燃えていた。毎夜夕食後、近所の人達が5、6人集まってくる。伯父が地区の世話係をしていた所為だろう。

そして、番茶をすすりながら、政治の話、農作物の話が始まる。時には口論になる。

高校生だった私には、どっちでもいいように見えることを、大真面目に口論する大人達が面白かった。それが12時過ぎまで続く。翌日は、日の出とともに農作業に出るのにタフな人達だ。

今思えば囲炉裏が格好の社交場になっていたのだ。そして、たわいもない四方山話が人々のつながりを強めていたに違いない。現代の生活の中で、囲炉裏を取り入れることは望むべくもないが、日本人の心を育てた文化遺産として、次の世代に伝えたいものだ。

いろり守の会では会員募集中です

入会希望者は下記の日時に公園母屋のいろり端までお出掛け下さい。詳細はその際説明させていただきます。

9月のいろりの焚火の日 9月10日(水)、9月21日(日)、9月25日(木)

(時間: 9:30 ~ 12:00)

[9月21日(日)には、いろり端の紙芝居も予定しています。]

催し物 ご案内

奮ってご参加
下さい！！



工作棟 10月教室のご案内

室名	開催日	内容	材料費	締切日
布細工教室	10月2日(木)	和布で作るフクロウの親子	500円	9月25日(木)
七宝焼教室	10月9日(木)	銀箔を使ったアクセサリ	1,000円	9月25日(木)
刺し子教室	10月15日(水)	花瓶敷(30センチ円形)	800円	9月30日(火)
つる編み教室	10月16日(木)	素編みでカゴを作る	1,000円	9月30日(火)
「遊布」教室 (全2回)	10月22日(水) 10月29日(水)	ピエロの小物入れ	1,000円	9月30日(火)
伝統工芸「鎌倉彫」 を彫る(全4回)	10月5日(日) 10月19日(日) 11月2日(日) 11月16日(日)	7寸の角皿を彫る	2,500円	9月20日(土)

* 各教室共通

- (1) 時間 13:00~16:30
- (2) 定員 12名(応募者多数時抽選)
- (3) 応募要領 往復ハガキに氏名、住所、電話番号、教室名を明記して本郷ふじやま公園へ



いりり辺雑記

ぼくは初めて来ました。昔の家は人の力で作っているけれど、今は機械やいろいろな道具を使ってやっている。昔は機械がなくて人の力で作っていたから、すごいと思いました。古くても昔の家はいいなと思いました。
K.O君 (10歳) 2003.5.25



古民家ゾーン ご利用案内

- ◎開館時間 : 9:00~17:00
- ◎休館日 : 毎月第1水曜日(祝日の場合はその翌日)
- ◎入館料 : 無料
- ◎最寄のバス停 : 中野町又は鍛冶ヶ谷町(神奈中バス)

- ◆ 本郷ふじやま公園運営委員会
〒247-0009 栄区鍛冶ヶ谷1-20
Tel:896-0590 Fax:896-0593
- ◆ 緑政局中部公園緑地事務所
Tel:711-7802 Fax:712-6260

